

仙台教区報

カトリック仙台司教区事務所
〒980
仙台市青葉区本町1丁目2番12号
☎ 022(222)7371
FAX 022(222)7378
編集・発行 板垣 勲

ともに祈り、ともに歩もう

「司祭召命活動要項」が決まる

司牧評議会では「仙台司教区一粒会」の見直しのため、召命促進キャンペーンを進めるなど、2年以上にわたって作業を続けてきた。3月20日に開かれた第32回司牧評議会定例総会は、司牧評議会役員会が提案した、今後の司祭召命活動を進めるための「司祭召命活動要項」（以下、要項）を承認した。これにより、新要項は93年4月1日から実施に移される。

要項は教区の長年の懸案であった一粒会の見直し作業の中で、司祭召命促進は全教区民に関わる重要事項と確認されたことを基に作られた。

役員会が要項の作成にあたって、特に考慮したことは、一粒会が会員制度により司祭召命促進の活動をし、それがともすれば召命促進の活動は会員だけのものと受け取られがちなことを見直すことにあった。

見直し作業では一粒会の名前をどのよう

にするかが大きな話題となり、「司祭を生み出すために実績をあげた一粒会とその名前は教会に定着しており、歴史的にも意味深いものがあるから残したい」という意見もあった。

しかし、総会で活動要項の細部が討議され、新要項は今までの一粒会活動と異なる意味と内容があることが認められ、6項目からなる要項は提案通り承認された。

要項について

新しい要項は「司祭召命促進が教区の重要な課題であり、全教区民の責務であること」をふまえ、司祭召命促進、並びに神学生養成援助の諸活動を、円滑かつ積極的に推進していくこと」を指すと要項制定の意旨を述べている。

そして、活動の名称と目的を述べた後、

司祭召命活動（以下、活動）を推進するために、教区に活動担当司祭、小教区に活動担当者を置くことを明らかにしている。

活動担当司祭は司牧評議会、神学生養成委員会、青少年委員会、及び小教区担当者と連携して活動を推進すること、小教区活動担当者は小教区等で召命促進のため、信徒に種々の働きかけをすることが主な役割である。

また、活動のための資金は教会維持費とは別枠に扱い、全信徒による司祭召命活動のための献金から拠出されることになる。

この献金は、信徒個々の教会維持費の7%程度を目安として考え、従来の一粒子会費とは違って全信徒が献金することに、要項の新鮮さがあらわれている。

今回制定された要項は司祭召命促進のため大枠を定めたもので、これにより、全教区民が司祭召命促進のため、意識を高め積極的に関わることを期待される。

「一粒会」は発展的に解消

要項制定により、長い間、司祭誕生のために大きな働きをしてきた「仙台司教区一粒会」は、3月31日付で廃止される。

しかし、「一粒会」が大切にしてきた祈り、犠牲を伴う活動精神は信徒の働きを支えるものとして、これからも大切にされなければならない。



第2回福音宣教推進全国会議 教区代表が決定

今年10月21日から24日に長崎教区で開かれる第2回福音宣教推進全国会議（以下、全国会議）に出席する教区代表が、3月20日の司牧評議会定例総会で決まった。教区代表として全国会議に出席する人は司祭団修道会、小教区から選ばれた12名である。

代表選出にあたり、教区の全国会議準備委員会は、上記の団体等に代表候補を推薦するよう呼びかけた。候補の推薦にさいして委員会が掲げた条件は、自薦、他薦を問わず、小教区等から教区の代表として相応しい人と認められ、会議の全日程に出席できる条件を満たす人というものであった。

この呼びかけに、教区内から積極的な応えがあり、特に男女各3名を選ぶ必要がある信徒の場合、候補者が13名も推薦されてきて準備委員会はおおいに力づけられた。

委員会では代表候補の推薦を受け、出席がすでに決まっている2名とは別に、教区の事情を考えて司祭、修道者、信徒あわせて10名の代表候補者のリストを作成し司牧評議会総会に代表者として承認を求めた。

総会は提案どおりに代表候補者を承認し次の12名の方々が全国会議仙台教区代表に正式に決まった。これによって、仙台教区の全国会議に向けての動きはさらに進展することになる。

全国会議教区代表者（12名）

- 司 教 佐藤 千敬
- 担当司祭 梅津 明生
- 司 祭 横島 健二
- 修道者 R・ラトゥール
- 渡辺 麗子
- M・ブッシュ
- 信 徒(男) 佐藤 英樹(畳屋丁)
- 小野寺 哲(釜石)
- 土倉 相(北仙台)
- (女) 相良 ヒロ子(原町)
- 小豆畑 緑(篠田)
- 渋谷 みつ子(築館)

司教区センター

献堂式7月24日に

教区民が完成を待ち望み、工事が順調に進められている「カトリック仙台司教区センター」の献堂式の日程が決まった。当初は聖ペトロパウロの祝日を想定したこともあった献堂式は7月24日（土）に行なわれる。

献堂式に先だって、教区センターの事務棟は4月28日に建設業者から引き渡しを受け、仮使用の形で使い始めることも確定した。5月の連休には教区事務所と元寺小路教会は、明るい色調がまぶしい事務棟への



引越作業を行なうことになる。

しかし、引越はあくまでも建物の暫定使用なので、聖堂棟が完成するまでの間ミサ、各種の典礼は仮聖堂となる1階信徒ホールを使って行なわれる。

これから建設工事は内装工事、備品・家具類の搬入、鐘楼への鐘の取り付け、外構工事などと続けられるが、献堂式の準備や教区センターの使い方についての検討作業も、教区事務所と元寺小路教会合同で進めている。

教区センターと平行して工事が進められている聖パウロ書院は、予定どおりの完成が見込まれ、新しい書院で買物ができるのも間近になった。

多くの方が心配している建設資金の募金状況は幸いなことに、全教区民の理解と協力によって、小教区、修道会の多くは申し込み金額の全額納入を達成しつつある。

また、全国各地から、篤志家が寄せてくださった多額のセンター建設工事寄付金は建設工事推進の大きな力になっている。

隣接教区からも注目されている教区センターの完成が目前に迫った今、教区民は新しい建物を多くの人に福音を述べ伝える場にするため、また、センター建設のために祈り、献金し、働いて協力してください。方に答えていくために、共に祈り、話し合い、学び合い、その実現に向かって進むことが求められている。

ともに生きること

山谷で越冬、して



海老沢 則子（一本杉教会）

短期間の経験でしたが、山谷で考えさせられ、今でも、まだ消化しきれず私の心にずっしりと重くのしかかっていることを書きます。

私は初めて山谷での越冬に参加させていただきました、まず自分がいかに無知であるかということを感じました。

今まで私は山谷がどんな社会で、どういう環境におかれているのかわからず、どうも勝手に、自分のまわりのことや自分のことばかり考えて生きていたような気がします。毎日流れているテレビ、ラジオ、雑誌、新聞などの情報を時々耳にして友達と話し、理解したつもりでいました。

けれども越冬で教えられたこと、見てきたことは今までの私が得た知識からは信じられないこと、でも本当のことなのです。

労働者のための越冬活動は人員パトロール、医療、炊事と分かれ、私は医療班の一員として医療相談室で仕事をしました。医療班の主な仕事は体の具合の悪い人、ケガをした人の看護と相談、それに公園内の巡回パトロール、山谷労働福祉会館の留守番などです。

山谷で日雇い労働者のための活動に年末年始に関わっている間に、私は「闘う」という言葉をよく聞きました。私ははじめの間、その訳が分からなくて、ただ恐ろしいことを言うなと思っていました。

日雇い労働者はほとんどの人がいろいろな障害や病気を抱えています。結核、高血圧、喘息など数えあげればきりがありません。彼らはそんな体で激しい労働をし、野宿をしています。野宿をしていると警察官に起こされ、ダンボールを無理矢理剥ぎ取られて持っていかれることもあります。

結核などはちゃんとした治療をすれば治る病気です。しかし、労働者が医者にかかる時、ほとんどの人がお金がなく、生活保護を受けているので、いろいろな手続きが必要になり病院にたどり着くまでに、とうもろこしもない時間といくつもの障害をくぐらなければなりません。

たとえ病院にたどり着いたとしても病院をたらい回しにされ、ほとんどの人が完治せずに入院を繰り返してしまいます。救急車で病院に運ばれても簡単な治療で放り出されてしまうこともあります。だからほとんどの労働者は病院を嫌って行きたくありません。

だからこそ、日雇い労働者にとって、生きることはまさに「闘い」なのだ、私はやっと気づかされました。

けれども、山谷の人は自分のことで精一



杯でお金も無いはずなのに、慣れない手伝いをして私たちに、缶コーヒをおごったりいろいろ私たちを心配してくれました。世間の冷たさをいやというほど知り尽くし、どれだけ辛い思いをしているかわからないのに、そんな優しさ暖かさに触れると本当に泣けてきます。

不況と騒がれている世の中、真っ先に弱い者がしわ寄せを受け、仕事も減り賃金も安くなり、野宿をしなければならぬ労働者が昨年の2倍以上になっています。

新年が始まるからと髪を切ったけど何もないことないつぶやいていた23才の労働者。お正月に俺はこんなところにいるのかと叫びながら歩いてきた労働者。死にたい、助けてくれとうめきながら担ぎ込まれた労働者。

社会には情報が氾濫しているのに、真実を伝えてくれるものはどれだけあるのかと考えさせられます。私たちは本当に知らないければならない大切なことは教えてもらえないと嘆くよりも、できることから始め、物事を見極める正しい判断力と広い視野を育みたい。そして、知ったことを多くの人に伝えていければいいと思う。

私は山谷で生きる希望すら失いかけている労働者に叫びたい。野垂れ死にしないでほしい。力強く生きてほしい。あきらめずに闘ってほしい。それは私自身への心の叫びでもある。

教会の事業の現場から

大清水ホーム便り



柏谷 昭子（生活相談員）

秀麗岩木山の全容を遠く望む大清水の地に昭和48年2月1日、私たちの弘前大清水ホームは開設されました。同じ敷地には赤い三角屋根の弘前大清水学園が4年前に開設されており、当時、ホームの周辺はりんご園が広がり、岩木山の麓まで灰色に煙り、裾野までりんご園であるかのように見えておりました。時に、「兎はねでらきや」とお年寄りが知らせてくれる雪の朝、裏庭には兎の足跡が幾つも、幾つものりんご園との間に続いておりました。

弘前市で二番目にできた特別養護老人ホームは、先に精神薄弱児通園施設を開設され、ご苦労なされた故ロベール・ヴァレー園長と那須三史次長のもとに、老人福祉という言葉さえ耳新しい職員ばかりを抱えて始められました。

資金に余裕のない施設に備品は最低限。事務室はダンボール函が重ねられていました。それでも、弘前大学医学部付属病院第一外科婦長の地位にありながら、ヴァレー園長のもとに馳せ参じた後藤婦長の知識をできる限り受入れ、お年寄りに用いられる

医療器具を優先して備えました。お手本など何もなく、園長の示されるカトリックの精神に基づいた仕事をし、婦長に従い一心に学び励み、経験を重ね処遇を見直しながら、私たちは今日に至りその間に少しづつ福祉施設の職員らしさと誇りを身に付けてきました。

日曜のミサには、お年寄りと共に全出勤職員が参加しました。ミサ中の園長のお説教には、回を重ねるうちにゆとりを持って聴く耳を持つようになって行きました。ミサは職員にとって、自己反省するうえで切っ掛け、良い教えを受ける場になりました。

「奉仕の無い人生は意味が無い、奉仕には犠牲が伴う。犠牲の伴わない奉仕は、まことの奉仕ではない」

ヴァレー園長が繰り返し、繰り返し話されていたこの言葉は、残念なことに園長が亡くなられてから気づいた尊い言葉でした。決して人に強いること無く、我身を持って教えられた精神でありました。しかしながら、この精神はしっかりと根をおろし職員一人一人の心を支えております。

喜びも苦しみも幾年月。ホーム創設十年の喜びを向かえることなくヴァレー園長は帰天されてしまいました。「この方に倣って」と一心に従った私ですが、時の流れは老人福祉の施設をも変えて行きました。創立当時、到底許可が得られなかったヴァ

レー園長の第一番の目的であった老人アパートも、今は至るところに開設運営されており、あります。

私たちは地域に強く結びつき高齢社会を支えて良い仕事をするために、お年寄りが個々に持つ不安と不自由を出来る限り取り除いていく使命を、一人ひとりしっかりと自覚しなければなりません。私は一緒に働く信者ならぬ職員が、カトリックの施設職員であることに誇りを持ち続けている姿に頭さがる思いを抱き、責任の重さを感じております。

私たちは代々の園長の働きを忘れることができませぬ。入所者のためには、何ものも惜しむことなく揃えてくださる司祭ならではの心づかいに、私たちは幸せを感じておりました。ホームのマリア様として活躍された故アルホンザ様、すがるような気持ちでお年よりから頼みにされているシスター方の働きは、カトリック施設の利点として心しなければなりません。

環境も20年を経て随分変わりました。敷地には保育園、希望の家が仲間入りし、この四施設は通称「大清水福祉村」と呼ばれています。多少自然は損なわれたものの、広々とした美しい園庭、美味しい空気は変わりませぬ。

帰天された指導者、偉大な業績を残して逝かれた大先輩ありがとうございました。神ともいまして、幸せです。

配偶者の 受洗を求めて

玉置 ナカ(久慈教会)

私たちの教会では大切に続けていきたいことの一つとして、一九九二年一月から毎週日曜ミサ後に、配偶者の受洗を求める祈りを始めました。

久慈教会は信徒総数32名、主日ミサに10名前後、受洗・求道・転入者が増えてやっと20名近くなると転出し、また10名前後になります。信者も家族全員よりは1人だけが多く、夫婦の一方が未洗者の方がほとんどです。

祈りを始めたきっかけは、正月に里帰りした1人の人の話からでした。

彼女は「3人の子供もいて未洗者の旦那さまもいい人で、生活もまず不自由なく幸せなのに、一番大切な永遠の命、神様や死そのほかのことを夫婦で話しあえず、心が一つでないことの足りなさがどんなに深いものか、結婚生活も落ち着いてきた今よく分かる」と話してくれました。

私たちは話を聞いて善は急げ、それなら配偶者が受洗の恵みを与えられるように、教会で祈りの助けをしようということになりました。教会だけでは夫婦は何組もいませんので、範囲を久慈に以前に住んでいた懐かしい人々まで入れて、ミサ後に和紙に

名前を書いて祭壇に奉獻(第1日曜には名前を読み上げる)し、ロザリオ1連を毎週捧げてきました。

そんな中で、幸いなことに昨年は奥様1人、旦那様1人が受洗の恵みをいただきました。

そのほかに教会外に住んでいる方には手紙を出し、趣旨を説明し信者の配偶者の方から名前を書いてもらい、それを奉獻するようにしています。受洗を求めて祈っている方は教会で5人、小教区外で19名ですが手紙を差し上げた方から、久慈教会の輪の中にいる心強さをともうれしく思うなどと便りがあり、祈りによる結び付きを強く感じていきます。

また、祈り始めるきっかけを作った彼女も2人の子供に、延び延びになっていた洗礼を授けることができ、1人の方は今まで反対していた旦那様が、長男と次女の洗礼を許してくれたことに、久慈教会の祈りの恵みを感じていますと便りがありました。

もちろん、私たちの祈りと共に夫婦間、親子間での働きが大きな力になっていきますが、久慈教会の祈りを心にかけてくださる方がいることを思うと、久慈教会は小さな教会なのに諸聖人の輪の中、カトリックの広さの中にあることを感じるこの頃です。私は何年前かに、北海道の男子トランプスト修道院を訪れ、1人の神父様と話して来

ました。後で神父様が便りをくれ、「誰かがどこかで、あなたのために祈っています」と書いてくださいました。

久慈教会は2年目を迎えた今年も日曜ミサ後、みんな「配偶者の受洗の恵みを求めて」祈り続けています。今の時代に、人のために祈ることはとても大切なこと、大事な働きじゃないかと思えます。

二情情報

厚生大臣から感謝状

湯本教会カテキスタの横尾重信さんが長年の民生児童委員の働きを認められ、昨年12月厚生大臣から感謝状を送られた。

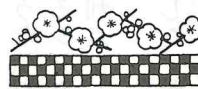
誓願式

○聖ドミニコ女子修道会では3月6日に佐藤司教の司式で、庄子はるみさんの終生誓願式を行なった。

○オタワ愛徳修道女会では3月20日にR・プロヴァンシエ神父の司式で、鈴木豊子さんの初誓願式を行なった。

チャリティーコンサート

「チエルノブイリの子供たちを迎えるために」4月29日午後2時から、北仙台教会中庭で、苦米地サトロさんがコンサートを開きます。



ブラジル宣教記

首藤 正義神父

ブラジルに在ること5年弱。昨年の12月半ば、再び仙台教区で働くために戻ってまいりました。渡伯に際し、またブラジル滞在中、仙台教区の皆様からは物心両面にわたってご援助いただきました。この紙面をお借りしまして、改めて心から感謝申し上げます。

日本に戻って、アツと言う間に3ヶ月半が過ぎてしまいました。ブラジルが、時を重ねる毎に少しずつ、私から遠のいて行くような気がします。5年間の体験が風化してしまわないうちに、その断片の幾つかをここに記して見たいと思います。

1988年2月28日、サンパウロからマナウス経由でサンタレンへ向かう機上で初めてアマゾンと出会ったときの思い。時は既に夕暮れ。延々と広がる濃紺の密林地帯を切り裂くように、銀色の教本の線がチャッチラッと見え隠れしていました。アマゾン河でした。胸がジーンと熱くなるような一種独特な感情の高ぶり、「とうとう、やって来た」という実感。

その時は、これから直面するであろう困難、危険、不安などまったく忘れて、機内の窓からじっと飽きずにアマゾンに見入っていました。唯々「ついに来た」ことの感



慨に耽っていました。その後、何度か機上からアマゾンを眺める機会がありました。しかし、もう二度と同じような感情を覚えることはありませんでした。むしろ、最初には見えなかったものが見えるようになって来ました。

延々と広がる密林地帯には多種多様な動物だけでなく人間が住んでいました。人々の生活があったのです。人々は教家族、十数家族、時には百家族以上で一つの集落を形成し、年に一度の選挙で選ばれる長を中心に村の祭り、共同作業等について相談しながら、電気、ガス、水道のない中で生きています。また、昔ながらの方法で主食のマンジョウカを植え、アマゾン河での漁でその日暮らしの生計を営んでいます。人の生活は実に単純素朴で、そして貧しいです。家族が多いためか、小さい子供たちがいつも素っ裸でいるのをしばしば見かけました。でも、子供たちはいつも素足で明るく元気に走り回っていました。

どこの村も抱えている共通の問題が幾つもあります。

大人たちの中には文字が書けず読めない人が多いです。結婚式で新郎新婦そして証人たちの署名のとき、自分の名前が書けなくて当惑している場面にしばしば出会いました。学校教育は4年生までしかないところが多く、先生が一人で3学年同時進行の授業風景も普通に見られます。子供たちは

教科書はもちろん、ノート、鉛筆に事欠く有り様です。村によっては先生一人を確保することが困難なところもあります。

村には医者がいまません。病気になる時はパジェ（祈祷師）を訪ねるか、昔から語り継がれてきた薬草を捜し求めて、それを煎じて飲むしかないのです。幾人かの幼い子供がパジェのところへ、命を天に返してしまいました。マリア・グロシアは親戚や村の人たちの好意で町の医者にかかることができましたが、専門医に診てもらわなければならぬということで、結局は村に戻ってきて9年4ヶ月という短い命を終えてしまいました。村の人たちは魚とフアリニャだけ、という貧しい食生活を送っています。栄養の絶体量が不足しています。

人々は1ヶ月に数回、町に出かけます。交通手段として定期船を使います。フアリニャ、魚、果物を携え、それを現金に替えて、生活必需品を買い求めるのです。ランプのための油、コーヒー、砂糖、塩、ロソク。現金収入の少ない彼らにとって町へ出かけることは大変なことです。急病人が出て、週2回しかない定期船を待たなければなりません。お金がなくて定期船にも乗れず、家でじっと病氣と闘っていかねばならないこともしばしばです。

飛行機から眺めるアマゾンは壮大です。濃紺の密林地帯は延々と広がる草原のようにも見えます。アマゾンという言葉の響きは夢を、冒険心を駆り立てます。しかし、そこに生きる人々との出会いは人間の哀しさ、喜び、希望を教えてください。



窓を開ければ



東チモールのこと(4)

「仙台東チモールの会」羽倉 正人

最終回なので、東チモールと日本(人)の
関係についてまとめてみる。

太平洋戦争中、日本軍は3年半東チモ
ールを占領している。4万人の東チモール人
が死んだという話がある。日本政府は正確
な実態調査を発表すべきである。賠償責任
も終わっていないし、当時ばらまいた軍票
もそのまま、今日に至っても回収してい
ない。賠償は東チモール自身に対してであ
って、ポルトガル、ましてインドネシアに
対してではない。

次に国連における日本政府の対応。国連
は8回にわたってインドネシアの侵略を非
難し、東チモールの自決権を認めている。
これらの総会決議にあらうことか日本政府
はことごとく反対票を投じ、おまけにイン
ドネシア側に立ったロビー活動を展開して
きた。国連におけるこの態度は今も変わっ
ていない。侵略を弁護するなどもってのは
かではないか。せめて紛争中の国に対して
は中立の立場を守るべきである。

さらにODA(政府開発援助)の問題、日
本政府によるインドネシアへの大規模援助
の問題がある。日本政府が設定したODA
四原則では軍事支出の突出している国や、

基本的人権・民主化を抑圧している国には
援助を削減ないしは中止することを謳って
いる。この原則はインドネシアにはまった
く適用されていないばかりか、その逆にイ
ンドネシアに対するODAは、他の国を圧
倒することく突出している。

インドネシアによる東チモール侵略を陰
で支えているのは、日本ではないかという
声が高まっているも弁解できない。

また東チモール海域における石油開発へ
の加担の問題もある。日本石油はすでに事
実上の盗掘に参加している。これは一私企
業のレベルの問題ではない。

★
ところで新しいところで今年になっての
ことだが、1月に宮沢首相がインドネシア
を訪問した。

首脳会談の中で「(サンタクルス)事件
後にスハルト大統領が取った処置を評価す
る」と宮沢首相はわざわざ後押しする発言
をしている。いったい具体的に何を評価し
ているのだろう。

いずれにつけても私達は日本政府に対し
ては腹立たしく思い、東チモールの人たち
に対して申し訳ない想いを持っている。



「仙台東チモールの会」では(通信)を
発行しています。定期購読料は〒2000
です。東チモール問題への関心を継続して
ください。

☎・FAX 021-266-5186

読 書 安 永 内

「百万回生きたねこ」

佐野 洋子作・絵(講談社)

生きているときには百万人もの人に愛さ
れ、死んだときには百万人もの人によって
泣き悲しまれたトラねこの物語。トラねこ
は、愛されることにはどんな欲だけれど、愛
することに困窮さを覚える現代人
を、そして、愛することは、自分を与える
という意味で、じよじよに死んで行くこと
であることを忘れている現代人を表わして
いるかのようです。

しかし、そのトラねこがある日、一匹の
白いねこに出会ってから、生きている意味
は変化してゆきます。そして、死ぬことの
意味も。

とにかく読んでみてください。(K・M)

編 集 後 記

健康がどれほど大きな恵みかを忘
れがちな私たちの生活に、今年も
花粉症が大きな顔してはびこって
います▼巷では生活の変化が人間
の心身を弱くしたと言われています
▼自分を過信せず、コマーシャ
ルを過信せず本当の健康とは何か
と考えています。